沖中に、おうの島といふ小島、面白く浮みたり、杉の生垣のきりそろへたるが濱手にひきく見おろさる、など、風景甚よし、

〔書言字考節用集一乾坤〕玄界灘（ゲンカイナダ）、又作二源海一、筑前、

〔山陽詩抄四〕泊二天草洋一

雲耶山耶吳耶越、水天髣髴青一髮、萬里泊舟天草洋、烟橫二蓬窻一日漸沒、瞥見大魚波間跳、太白當レ船明似レ月、

瀨戶

〔書言字考節用集二乾坤〕迫渡（セト）、海川合水之處、湍門（同）万葉

〔倭訓栞前編十三世〕せと　神代紀の歌にみゆ、萬葉集に、湍門、迫門と書り、常に瀨戶と書も同じ、

〔萬葉集四相聞〕大伴郎女和歌四首〇中略

千鳥鳴（チドリナク）佐保乃河門（サホノカハト）乃瀨乎（ノセヲ）廣彌打橋渡（ヒロミウチハシワタス）須奈我來跡（スナワガクトオモヘバ）念者、

〔八雲御抄五名所〕渡〇中略

あかしのと播万、あかしのせと、いふ、なるとの阿万、たゞなるとも、〇中略つしまの對馬万、あかれむしあけのせと狹衣ゆらのと紀、好忠、さつまのせと薩摩万、おほしまのなると後撰〇中略

〔東遊記五〕金華山〇中略

すべて海中の難所といふは、打開きたる大海にはあらず、唯山と山との幅狹くなりたる所を迫門といひて、潮の勢も急に成り、波浪も逆立て渡りがたきなり、幅狹き所、底淺き所のみ恐ろしく、余なども初は海を渡らば、隨分里數短かく、幅狹き所の、玄かも底淺き所をこそ撰むべしと思ひしが、赤間關の渡りを越えて、其潮勢の猛なるをおそれしより、松前の渡り場の急潮を考へ合せ、諸國の迫門を乘りて、底淺ければ浪逆立、幅狹ければ潮急なるを知りて、唯海は廣く深き所を撰りて乘るやうになりたり、理はよく玄れたることなれども、實境に逢ざれば心得違ふ事も多き